

2 割付図

Q-16 矩形でない平面計画やスラブ段差等、特殊な場合のフラットデッキの納まり例を紹介してほしい。

A

フラットデッキ1枚の形状は、長方形であり両端にエンドクローズ加工がなされていますので、斜め梁の場合にはフラットデッキを現場切断して納める必要があります。フラットデッキを現場切断することにより、フラットデッキ型枠は、各種の変形スラブにも対応できます。フラットデッキの長さを調整するためにフラットデッキ(リブ)を切断した場合、エンドクローズが失われ、梁材に直接のせかけることができません。したがって、フラットデッキを支保工または、デッキ受けアングル等で支える必要があります。

ただし、フラットデッキの敷込み業者がガス切断機を持っていない場合やフラットデッキが下から見える直天井のケース、現場の状況で火気を使用できない等の理由で、フラットデッキの切断が不可という場合もあり全てのスラブ形状に対応出来るという訳ではありません。

したがって、計画段階で、フラットデッキ施工について支保工の使用可否等、現場の実状を加味してフラットデッキ施工範囲の検討が必要です。

1. 斜め梁の角度が小さい場合

1) S造梁のケース

リブを切断せずにエンドクローズを長くしたフラットデッキ(特注品)を利用し対応する。ただし、エンドクローズのオフセット値のチェックを行い、必要に応じて補強支保工を設置して下さい。

かかり代 + テーパー量 < エンドクローズ最大値

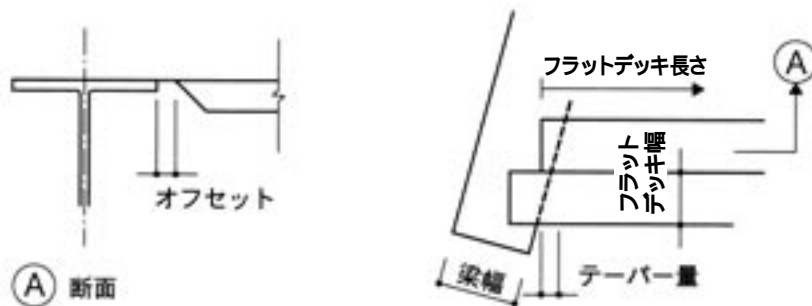


図 - 1 S造梁のケース

2) RC 造梁のケース

フラットデッキの躯体へののみ込み代 10mm という条件があり、長いエンドクローズをそのまま利用することはできません。この場合、躯体へののみ込み代部を梁の角度にあわせて切断する必要があります。

のみ込み代 + テーパー量 + 型枠 < エンドクローズ最大値

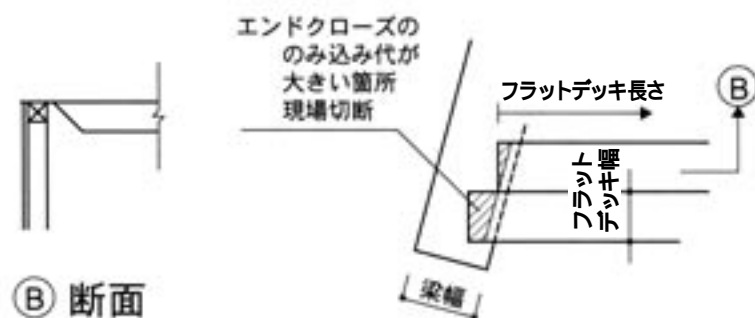


図 - 2 RC 造梁のケース

2. 斜め梁の角度が大きい場合

1) S 造梁のケース

フラットデッキのリブを現場にて切断し、デッキ受けアングル (L-75 × 75 等) を梁に取り付ける。

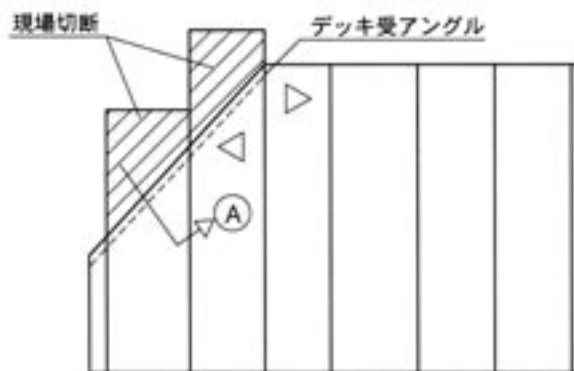
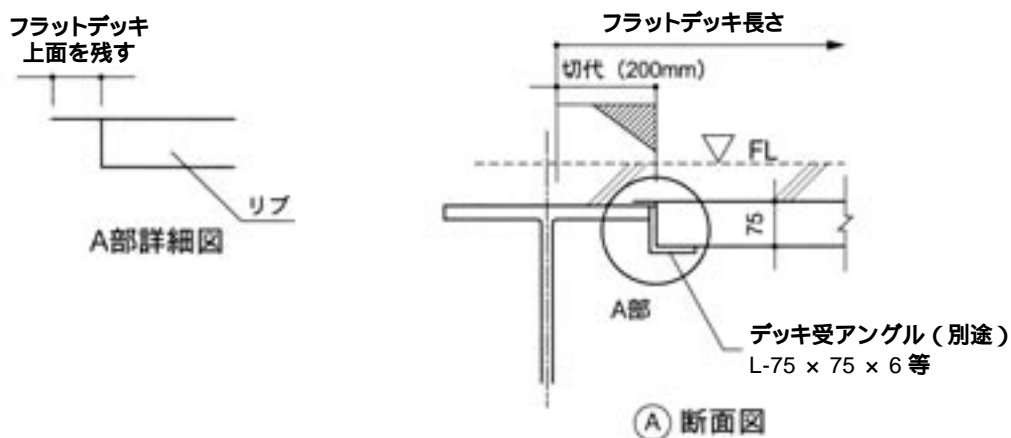


図 - 3 S 造斜め梁の例 ▶ 敷込み方向を示す



2) RC 造梁のケース

フラットデッキのリブを現場にて切断し、支保工を取り付ける。

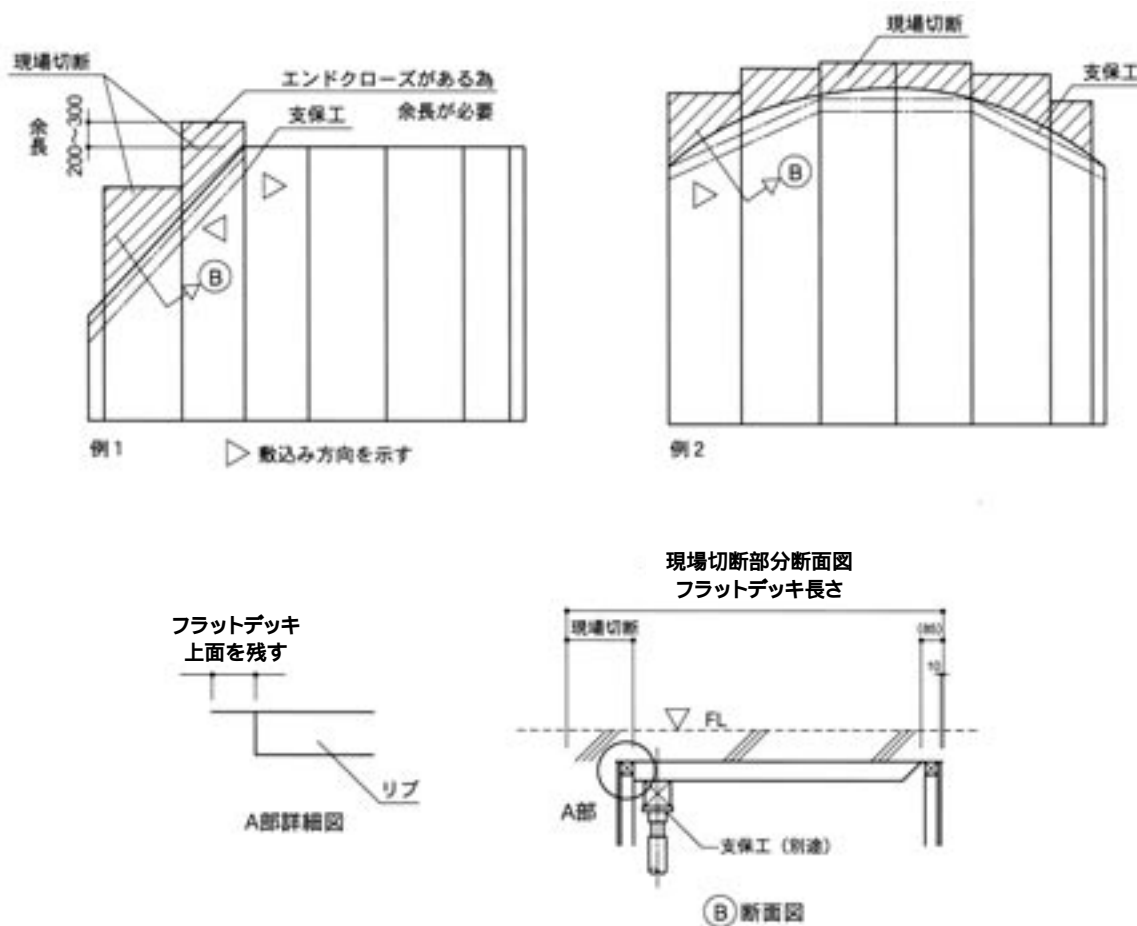


図 - 4 RC 造斜め梁の例

3) その他の事例

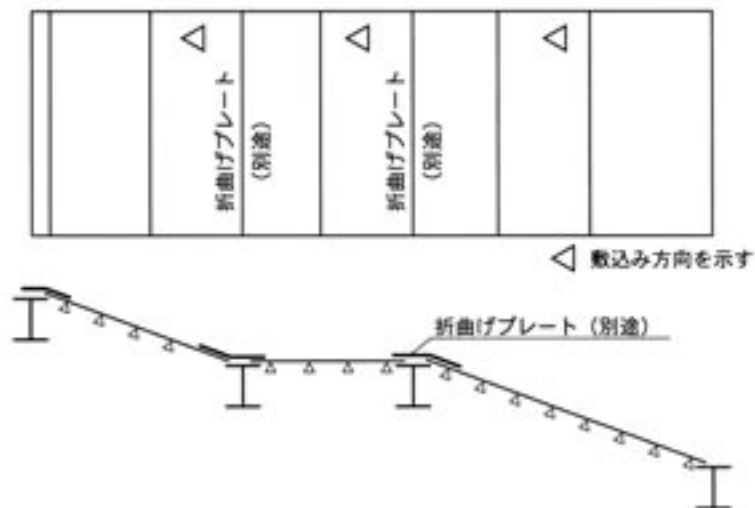


図 - 5 傾斜スラブの例

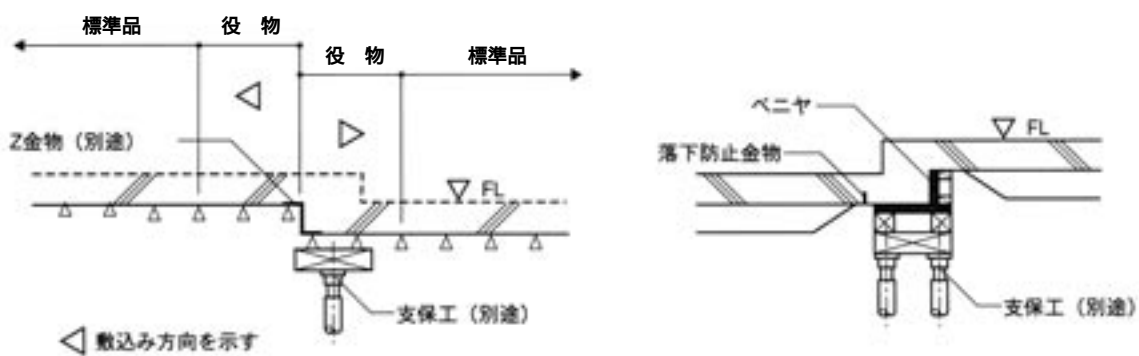


図 - 6 スラブ段差がある例